

## 『同志社百五十年史』 編纂事業

小 林 丈 広

小林：ありがとうございます。大学文学部の小林です。よろしくお願いたします。

私は、昨年度まで社史資料センターで所長を務めておりましたので、この一日研究会、毎年この場であいさつをさせていただいたり、懇親会に参加させていただくのを大変楽しみにしておりました。残念ながらコロナでお目にかかる機会が少なくなっているんですが、皆さんに社史の時にお世話になっていましたので、まず、報告の前に退任のごあいさつをさせていただきたく思います。ありがとうございました。

退任はいたしました、引き続き百五十年史の編纂委員長をということでお話を頂きましたものですから、この場で編纂事業の報告をさせていただければと思っております。

まず、これまでの経緯、これは百五十年史に関係して社史の中からのさまざまな動きとか、この第一部門研究のメンバーの方からのご要望など、さかのぼるといろいろあったというふうにお聞きしているんですけども、私自身は今から7年前、2015年の8月8日に、やはり一日研究会で百五十年史に向けて何か報告せよということで、社史資料センター所長になったばかりで、見習みみたいな状態だったんですが、付け焼き刃で勉強させていただいて、水谷理事長をはじめ、先生方と一緒に、あの時、北垣先生もご報告されたと思いますけれども、末席で報告をさせていただきました。

その内容につきましては、新島研究の107号にまとめられていますので、またご覧いただきたいと思うんですが、そこでもさまざまな百五十年史に対する期待とか、イメージを皆さんから意見を頂きました。それはその時限りのことだったんですが、今現在作業に追われていますので、なかなか振り返

る余裕もないんですけども、また機会があればあらためてこのころにどんな議論があったのかということもご紹介できればと思っております。

具体的な動きとしましては、現総長の八田先生が総長に着任されて間もないころに、もう百五十年史を動かしていこうということで、社史資料センターの所長をしておりました私に準備委員会を組織するようにとのお声掛けを頂きました。それをうけて、2018年3月26日、第1回の準備委員会を催させていただきました。ここにおられる横井先生にもご参加いただいたかと思えます。

ほぼ毎月のように委員会を開催いたしまして、今この会場にもいらっしゃる方々にもご報告をいただいたり、さまざまなご意見、ご見識をご披露いただきました。その中では、こういうものを調査すべきであるとか、このような内容にすべきであるとか、編纂物の規模とか、そういうことも含めてご意見を頂きました。

その過程では、早稲田大学の大学史の事務局を視察させていただいたこともありました。郊外にある施設でしたが、充実した活動内容と立派な収蔵庫を拝見させていただき、いろいろ勉強になった記憶がございます。

それらを踏まえまして、2019年6月ごろから取りまとめの作業を始めさせていただきました。準備委員会として同志社百五十年史はどうあるべきかということで、『同志社百五十年史』編纂事業について」という文書、これはずっと最後まで案が付いたままだったと思うんですけども、6月ぐらいから本格的に取りまとめの作業にかかって、12月にほぼ成案を得たという形になっております。

ただ、それからすぐ作業に取り掛かるはずだったんですけども、実際にはコロナの関係などもありまして、そこから約10ヶ月ぐらい予定よりも遅れ、2020年7月3日に編纂委員会を正式にスタートさせていただくことができました。その編纂委員会のもとに、12月1日からは現場のスタッフとして編纂員の配置をお願いすることができまして、編纂室の作業がスタートしたということがございます。

非常に簡単ではありますが、具体的な編纂事業の動きとしては、このようなことございました。また、後ほどご質問があれば補足をさせていただきます。

たいと思います。

そこでこの準備委員会で半年ぐらいかけて報告書をまとめていく中で、示された方向性を私も思い出しながら、あらためてこの文書を読み、要点をまとめさせていただきました。

まずは、やはり『同志社百年史』という、当時としては大学や各学校史の先駆けのような成果だったんですが、そこから約50年間、同志社の歴史というものが編まれていないので、この機会に本格的な同志社史を編纂すべきではないか。そのためには、やはり必要な調査をしっかりと行って、学術的にも、対外的にも評価に耐え得るものにすべきではないかという意見をいただきました。また、『同志社百年史』から後の50年間を中心に編纂するのか、150年間をあらためて本格的に編纂するのかというところにつきましても、いろいろな議論があったところで、作業としては大変になるんですが、150年間をあらためて編纂をすべきではないかという方向が出されました。その分、通史編については2巻構成で考えていこうということになりました。

実は、『同志社百年史』は通史編と資料編で構成されているんですが、資料というのは、日々新しい資料が見つかっておりまして、大学の社史資料センターや女子大の史料センターが日常的に調査に携わっておられますので、確定した資料編をこの編纂委員会で作成するというのは、なかなか難しいのではないかということになりました。その代わりにというわけではありませんが、むしろ新しい、これまでにない企画として部局編を設けて、法人内のさまざまな方々に執筆をお願いしながら、この編纂事業を盛り上げていただければということで、最初にこの部局編を刊行することを考えさせていただきました。

また編纂事業というのは、作業や実務が多い仕事ですので、そのための編纂室を設けて専任のスタッフを置くという提言を準備委員会として出させていただきました。今日ここにもいらっしゃいます先生方にもご理解いただきまして、おおむねその方向を了承していただき、本格的に編纂委員会をスタートしたということでございます。

そこでやはり学術的に意義のある、対外的にも評価に耐え得るものを作る

ためには、ある程度編纂室独自の調査活動が必要になる。準備委員会の中でさまざまなご意見を頂いたものを列挙したという形なんですけれども、特に専門的には一次資料という言い方をする資料の調査をしていく必要があるということで、この編纂事業案の中に調査方針として6項目掲げさせていただきました。

まず理事会記録、同志社社報のような基本文献、あるいは記録類をきちんと参照しながら記述をしていく必要がある。あるいは、もしかしたら新しい年表のようなものも作っていく必要があるのではないかと。

それから、法人内には、もちろん大学や女子大だけではなくて、今日もご発表の先生方の関係の学校や、それから校友会や同窓会のような諸団体もごございますので、そういったところに保管されている資料の調査も必要であろう。

それから、『同志社百年史』の後で編纂されました『新島襄全集』がござりますが、そういった新島研究での研究成果も含めて、関係者の個人資料を、これも余裕があれば収集整理、解読をして活用していく必要があると思っております。

また、準備委員会の中でご意見を頂いたことで言いますと、アメリカン・ボードや、各教会関係でお持ちの資料、その中にはもちろん英文の資料などもあるんですけども、そういったものも調査すべきではないかと。

それから、やはり『同志社百年史』の時に十分公開もされていなかったので利用できていなかった行政文書、いわゆる京都府庁文書ですね。また、『京都新聞』のような地元の新聞、そういったものにも同志社の記事というのはたくさん出てきますので、そういったものも参考にすべきではないかと。

準備委員会にお越しいただいた先生方からは、旧植民地の関係の資料というものについても、やはり現在の研究段階においてはきちんと参照すべきだというようなご意見を頂きました。それらを『同志社百五十年史』編纂事業(案)について」という文書の中に列挙させていただいておまして、おおむねの方向性としてはその通りだと思っているんですが、特に理事会記録ですとか、法人内諸学校の資料などは、社史資料センターをはじめとする学

内のさまざまな機関にご協力を得ながら、編纂事業で活用できればと思っております。こちらからももちろん、そういった各機関にもご協力させていただきますが、むしろご協力頂くことの方が多いと思っていますので、そういった協力関係といいますか、連携の仕方について今まさに議論をしているところです。

そこで、具体的な作業についてですが、編纂室のスタッフは必ずしも同志社出身の方ばかりではございませんし、歴史学を専門とする方ばかりではありませんので、同志社関係の新聞記事を検索する中で、編纂に必要な素養ですとか、知見を深めるということから取り組んでいます。

余裕があれば、例えばアメリカン・ボードの資料ですとか、新島襄の関係の資料ですとかという形で調査対象を広げていきたいと思っています。あるいは『京都新聞』だけでいいのかというご意見を頂き、当然全国紙などの同志社の関係資料も参照したいと思っていますんですが、こちらの方は公開されているデータベースを用いて、執筆者の方にお調べいただければと思っております。編纂室としてはデータベースのない地元新聞の調査に鋭意取り組んでいるところです。時間がかかることですので、ほかの柱の方にどの程度進められるか、現段階では分からないんですけども、そのような形で調査活動の方は進めております。

こういう調査活動の傍ら、もちろん執筆依頼にも本格的に入っております。先ほど申しましたように、まずはやはり部局編から刊行するために法人内の各部局にご無理をお願いして執筆依頼をさせていただいたところです。

この執筆依頼の過程でも、いろんなご意見を頂いたんですけども、何とかご理解をいただきまして、恐らくここにお集まりの方の中にも、分担をしてくださっている方はいらっしゃると思うんですが、執筆をしていただいているという状況です。

実は既に原稿をご提出頂いたところもございしますが、執筆依頼からおおむね1年ぐらいで原稿を執筆頂いて、そこから手直しということになると思います。

通史編につきましては、現在構成や依頼の仕方などを検討しているところですが、今年度中にはそういったところにも入っていくことができるのでは

ないかなと思っておりますので、この研究会で2015年に報告をさせていただいてからもう7年たちますが、ようやくこういった編纂事業のあらましをご報告ができるということになりましたので、この機会にご意見を頂ければありがたいと思っております。失礼いたしました。私のご報告は以上です。